

Showa Denki Group

2019 Round.3 SPORTSLAND SUGO



Mistresa RT
SDG HARC-PRO.

J-GP2 #71
Ikuhiro Enokido

ST600 #71
Daiki Uehara

JP250 #71
Kiyoshi Akama

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

■SDG Mistresa RT HARC-PRO. Media Infomation 2019 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第3戦 SUPERBIKE RACE IN SUGO

開催日：2019年5月25日(予選) 5月26日(決勝)
宮城県 スポーツランド SUGO (1周=3.7375km)
観客動員数：7,750人(2日間合計)

J-GP2クラス #71 榎戸 育寛

マシン：HARC-PRO.HP6-q タイヤ：BRIDGESTONE
予選：5番手(タイム：1分30秒978)
決勝：3位

ST600クラス #71 上原 大輝

マシン：Honda CBR600RR タイヤ：BRIDGESTONE
予選：25番手(タイム：1分32秒784)
決勝：21位

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清

マシン：Honda CBR250RR タイヤ：DUNLOP
予選：17番手(タイム：1分45秒781)
決勝：10位(国際クラス：5位)



弊社広報社員ライダー

J-GP2クラス #634 名越 哲平(写真中央)
J-GP2クラス #71 榎戸 育寛(写真右)
ST600クラス #71 上原 大輝(写真左)

昭和電機グループは、社会貢献の一環としてモーターサイクルスポーツ活動を支援させていただいております。また、未来を見据えた活動の一環として、上記の3名のライダーを昭和電機グループ正社員に採用しております。



■弊社社員ライダーの名越哲平が第3戦も2位表彰台を獲得！
■第3戦スポーツランド SUGO レース結果
名越 哲平 J-GP2クラス 予選：4位 / 決勝：2位



昭和電機では2018年度から、全日本ロードレースをより一層盛り上げるべくチームやメーカー、クラスを越えて各クラスのセクشنナンバーが「71」のライダーとチームを応援する「71プロジェクト」を発足し、様々な応援活動を行っております。

<http://mistresa-71.com>



【71Project Riders】

■JSB1000 #71 TK SUZUKI BLUE MAX
Takuya Tsuda

■ST600 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Uehara Daiki

■J-GP2 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Ikuhiro Enokido

■JP250 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Kiyoshi Akama

■J-GP3 #71 Team P.MU 7C MIKUNI
Akito Narita

■JSB1000 #12 YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING
Executive Adviser Yukio Kagayama

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2019 Round.3 SPORTSLAND SUGO

J-GP2 #71 Ikuhiro Enokido ST600 #71 Daiki Uehara JP250 #71 Kiyoshi Akama



榎戸育寛が粘り強い走りで3位表彰台を獲得!

シリーズ第3戦を宮城県・スポーツランド SUGO で迎えた全日本ロードレース選手権。第2戦鈴鹿は、JSB1000クラスのみだったため「SDG Mistresa RT HARC-PRO.」としては、開幕戦ツインリンクもてぎ以来、約2カ月振りのレースとなった。2週間前に事前テストがあったが、榎戸は直前にアクシデントがあり、参加できず、レースウィークからの、ぶっつけで臨むことになってしまっていた。



J-GP2 #71 Ikuhiro Enokido

ここ数年、SUGO ラウンドは、雨や霧、寒さなど天候に恵まれていなかったが、今年は、事前テストから一度も雨はなく、レースウィークも快晴となった。湿度は低かったものの、気温は30度を超え、路面温度も50度超えと真夏並みのコンディションとなっていた。



榎戸は、金曜日の1本目、2本目と着実なステップを踏み、マシンをメカニックと二人三脚でセットアップし、ライバルとの差を詰めて行く。公式予選では、1分30秒台に入れ5番手。2列目からスタートすることになった。一方、ST600クラス2年目を迎える上原は、事前テストからライディングに悩んでいた。今シーズンは、特に激戦となっているST600クラスだけに、ポジションを上げて行くのは容易ではない。この課題を克服して行かなければレーシングライダーとして先はない、と取り組んで行くが、どうしても力が入ってしまい理想とする走り方ができず、タイムも自己ベストを更新できずに25番手グリッドとなっていた。JP250クラスの赤間は、予想以上に上がった気温のため、マシンに影響が出てしまうが、それでも17番手につけていた。



JP250 #71 Kiyoshi Akama

JP250クラスのレースは、土曜日の最後に12周で行われた。赤間は、ますますのスタートを切り2つポジションを上げてオープニングラップを終えると、うまく追いついて来たライダーについて行く。レース終盤に、前で転倒したライダーもあり、ポジションを上げて総合10位、国際クラス5位でゴールしている。

日曜日は、さらに気温が上がり路面温度も上がったため、朝のウォームアップ走行でマシンをアジャスト。榎戸は、グリッドに向かうギリギリまで、マシンセットを詰めて行く。一方、上原は、HARC-PRO.の本田会長にアドバイスをもらい、今回のレースは、順位よりもライディングの改善に取り組むことを第一に臨むことにした。



20周で争われたJ-GP2クラス。榎戸は、慎重にスタートを切り、オープニングラップは、6番手で終えると、2周目に4番手に浮上する。レース序盤は、4位争いの集団をリードしていたが、9周目に小谷選手にかわされ5番手に後退する。レース終盤になると、前で転倒があり、3位争いのバトルとなる。榎戸は、残り2周を切った19周目に再び前に出ると小谷選手を抑えきり3位でゴール。表彰台の一角を占める結果となった。

ST600クラスの上原は、25番手グリッドからスタートし、集団を引っ張る走りをしながらも、ライディングスタイルの改善に取り組みながら周回を重ねた。レース終盤には、19番手までポジションを上げるものの、ラストラップに2台にかわされ21位でゴール。惜しくもポイント獲得はならなかったが、次回につながるレースとなった。



ST600 #71 Daiki Uehara

■榎戸育寛コメント

「自分自身の責任で事前テストに参加できずチームにご迷惑をおかけしました。レースウィークからの走り出しになり、周りに比べて出遅れたことは否めませんでした。チームのバックアップもあり、セッション毎に着実にステップを踏めました。決勝は予想以上に気温が上がってしまい、ソフトコンパウンドをチョイスしたのですが、レース終盤は厳しかったですね。それでもタイムを上げて行けましたし、次戦は、ホームコースの筑波なので、しっかりトップ争いができるように事前テストからしっかり仕上げたいですね」

■上原大輝コメント

「本田会長にアドバイスをいただき、今回のレースは、結果よりもライディングの改善に重点を置いて臨ませていただきました。予選まで、力が入ると、どうしてもライディングが元に戻ってしまっていたので、決勝中は、ライン取りを考えながら走っていました。本田会長を始め、チーム、アドバイスをくださる小山選手を信じて、次戦の筑波は、事前テストからライディングをものにして行きたいと思っています」

■赤間 清コメント

「ちょうど追いついて来た速いライダーが来たので、うまくついて行くことができましたが、レース終盤は、想定以上に暑くなった気温のためマシンが思うように走らず厳しかったのですが、最後のバトルには打ち勝ってゴールできたので、ますますだったと思います。次戦の筑波は、さらに暑くなると思うので、しっかり対策して臨みたいと思っています」



このリリースのお問い合わせは
昭電機株式会社 マーケティング統括部まで